

当別町地域防災計画

< 地震災害対策編 >

令和6年2月改訂

当別町防災会議

目 次

第1章 総則（災害想定）

第1節	地震被害想定	1	～	3
-----	--------	---	---	---

第2章 地震に強いまちづくり

第1節	地震に強いまちづくりの推進	4	～	6
第2節	地震に関する防災知識の普及・啓発	7	～	8
第3節	防災訓練計画	9		
第4節	物資の調達・確保及び防災資機材等の整備計画	9		
第5節	自主防災組織の育成等に関する計画	9		
第6節	避難体制整備計画	9		
第7節	避難行動要支援者等の要配慮者に関する計画	9		
第8節	火災予防計画	10		
第9節	危険物等災害予防計画	11	～	14
第10節	建物等災害予防計画	15		
第11節	土砂災害予防計画	16		
第12節	液状化災害予防計画	17		
第13節	積雪・寒冷対策計画	18		
第14節	業務継続計画の策定	18		

第3章 災害応急対策計画

第1節	応急活動体制	19		
第2節	地震の伝達計画	20		
第3節	災害情報等の収集、伝達計画	21	～	22
第4節	災害広報計画	23		
第5節	避難対策計画	23		
第6節	救助救出計画	23		
第7節	地震火災等対策計画	24	～	25
第8節	災害警備計画	26		
第9節	交通応急対策計画	26		
第10節	消防防災ヘリコプター等活用計画	26		
第11節	食料供給計画	26		
第12節	食料供給計画	26		
第13節	給水計画	26		
第14節	衣料・生活必需品等物資供給計画	26		
第15節	石油類燃料供給計画	27		
第16節	生活関連施設対策計画	27		
第17節	医療救護計画	27		
第18節	防疫計画	27		
第19節	廃棄物処理計画	27		
第20節	家庭動物対策計画	27		
第21節	文教対策計画	28		
第22節	住宅対策計画	28		
第23節	被災宅地安全対策計画	28		
第24節	行方不明者の捜索及び遺体の収容処理埋葬計画	28		

第 25 節	障害物除去計画	28
第 26 節	広域応援・受援計画	28
第 27 節	自衛隊派遣要請及び派遣活動計画	29
第 28 節	災害ボランティアとの連携計画	29
第 29 節	災害義援金募集（配分）計画	29
第 30 節	災害救助法の適用と実施	29

第 4 章 災害復旧・被災者援護計画

第 1 節	災害復旧計画	30
第 2 節	被災者援護計画	30

改訂履歴		31
-------------	--	----

第1章 総則（災害想定）

第1節 地震被害想定

1 基本的な考え方

平成22年に策定された「当別町耐震改修促進計画」における、想定地震の概要と被害想定に基づき、地震被害を想定する。

2 当別町周辺における既往地震

当別町周辺における震度5～6の地震の記録は資料3-1（当別町周辺における震度5～6の地震の記録）のとおりである。

3 想定地震

(1) 北海道における地震の想定

北海道地域防災計画（地震防災計画編）による当別町に影響のある想定地震は資料3-2（北海道における地震の想定）のとおりである。

ア 北海道東部地震

この地震はM8.25と、規模が大きい地震を想定しており、当別町の想定震度は4となっている。

イ 日高中部地震

この地震はM7.25であり、1982年の浦河沖地震の再来を想定したもので、当別町の想定震度は4となっている。

ウ 石狩地震

この地震はM6.75と規模は小さいが、震源に近い当別町は危険度が特に高く想定震度は6であり、今後北海道と協力して詳細な検討が必要である。

エ 留萌沖地震

この地震はM7.0で、かつ、震源が沖合いであるため、羽幌町から石狩市厚田区にかけての海岸沿いの地域が震度5以上で、当別町の想定震度は4である。

オ 後志沖地震

この地震はM7.75と大きいですが、はるか沖合いに震源を想定していることから、瀬棚町周辺の海岸沿いで震度が大きいですが、当別町の想定震度は4である。

4 活断層帯について

道内の主要起震断層として地震調査研究推進本部が評価を発表しているうち、当別町周辺の活断層は次のとおりである。

(1) 石狩低地東縁断層帯主部

石狩低地東縁断層帯主部は、美唄市から岩見沢市、千歳市などを経て安平町にいたる東に傾く逆断層で、全体としてM7.9 程度の地震が想定され、30年以内の地震発生確率はほぼ0%とされている。北部に比べ南部のほうで平均変位速度が大きく、別に活動している可能性も指摘されている。

(2) 当別断層

当別断層は、当別町東部から当別川上流にかけて分布する。西に傾く逆断層と推定され、全体としてM7.0 程度の地震が想定されている。30年以内の地震発生確率は最大で2%で、この値は我が国の主な活断層の中ではやや高いグループに属する。

(3) 増毛山地東縁断層帯

増毛山地東縁断層帯は、沼田町から北竜町・雨竜町・新十津川町・浦臼町を経て月形町にかけて分布する。西に傾く逆断層と推定され、M7.8 程度の地震が想定されている。30年以内の地震発生確率は最大0.6%で、この値は我が国の主な活断層の中ではやや高いグループに属する。

5 当別断層について（平成15年11月12日地震調査研究推進本部地震調査委員会による）

(1) 断層の位置及び形態

当別断層は、北海道石狩郡当別町二番川付近から同本中小屋付近にかけて、南北方向に延びている。

長さが約20kmで、西側が東側に対して相対的に隆起する活断層である（図1）。

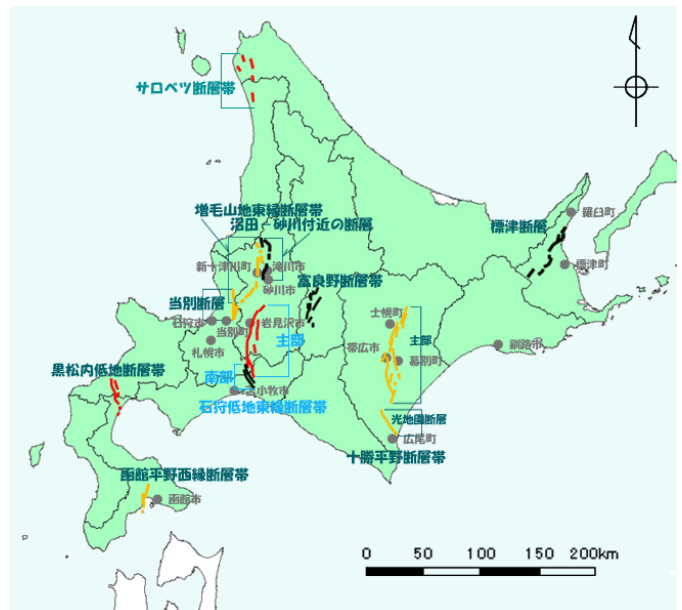
(2) 断層の過去の活動

当別断層の平均的な上下方向のずれの速度は、0.1－0.2m/千年程度で、最新の活動は約1万1千年以後、約2千2百年前以前にあった可能性がある。

活動時には、断層の西側が東側に対して相対的に1.5m程度隆起した可能性がある。本断層の平均的な活動間隔は7千5百－1万5千年程度であった可能性がある。

(3) 断層の将来の活動

当別断層は、全体が一つの活動区間として活動した場合、M7.0程度の地震が発生する可能性がある。また、その時、断層の近傍の地表面では、西側が東側に対して相対的に1.5m程度高まる段差や撓みが生ずる可能性がある。本断層の将来の地震発生確率は、今後30年の間に発生する確率が0～2%と予測されており、国内の活断層の中でもその発生確率はやや高いグループに属している。





1：一番川南部地点 2：青山中央神社地点
 ●：断層の北端と南端
 活断層の位置は文献1に基づく。断層（b）については、その断層線を台地と平野の境界付近に認める見解があるので、参考までにその代表として文献5によるものを（b'）として示した。
 基図は国土地理院発行数値地図200000「留萌」「札幌」を使用。

図1 当別断層

6 被害想定結果

想定地震による被害の想定は、資料33（地震被害想定結果）のとおりである。